

あんな本・こんな本

2021年3月26日発行 No.84

ボランティアによる新着図書・資料案内

この号では女性教育情報センターに2020年1月～12月に新しく受入れた資料の中から、ボランティアが選んだ本を紹介します。新着の全資料は下記の文献情報データベースからご覧いただけます。

https://winet.nwec.jp/bunken/cgi/newbook_cal/opac_newbook_cal.cgi?lang=0

読んでみました

ルース・ベイダー・ギンズバーグ (信念は社会を変えた! 6人のインタビュー 3)

ジェフ・ブラックウェル、ルース・ホプデイ編；橋本恵訳；あすなろ書店 2020年 [リストNo.4]



この本はネルソン・マンデラ財団のプロジェクト、「現代の影響力を持つリーダーたちが真に重要と考えていることを記録し、共有する」趣旨で編まれた「信念は社会を変えた!」シリーズ第3弾。主として本人に対するインタビューで構成され、90ページほどで1時間で読めるが、内容は濃い。

彼女の生涯については映画などで多少の知識はあったが、改めてすごい人だと思った。ハーバード大ロースクールに進学、コロンビア大ロースクールで法学の学位を取り首席で卒業したが、法曹界で就職することはできなかった。女性、ユダヤ系、母親という3つの条件がそろっていたからだ(大学で知り合ったマーティン・ギンズバーグと結婚し、一女の母だった)。そこで学界に転じたが、ここでもびっくりするようなことが起こる。

学部長曰く、「立派な職についている夫がいるのだから給料は同僚の男性より少なくする」。

女性を締め出す職業、慣習に対するギンズバーグの粘り強い闘いは続く。彼女の弁護士としての性差別をなくす活動の最初の勝利が、一人親に対する育児給付を妻と死別した男性にも適用させるという事案だったことは彼女の偏見のない姿勢をよく表している。その不屈の闘いはやがて実を結び、1993年には当時のクリントン大統領により連邦最高裁判事に任命される。

アメリカでは若者たちの間でも彼女の人気が高いという。名前の頭文字をとって「RBG」と呼ばれることが多く、『ノートリアス(悪名高い)RBG』はラッパーのノートリアスBIGをもじってある学生が立ち上げたブログだ。今やこのニックネームをプリントしたグッズが売れているとか(その収益の一部は女性の地位向上のために充てられているそうだ)。若者の間に民主主義の意識が健在であることが、トランプ前大統領を巡る動きの中でも感じられ羨ましいと思った。[YK]

編者注：Ruth Bader Ginsburg リベラル派判事の代表的存在 2020年9月18日 87歳で死去。

その生涯は、伝記映画『ビリーブ 未来への大逆転(原題：「On the Basis of Sex」)』や、ドキュメンタリー『RBG 最強の85才(原題：「RBG」)』で紹介された。

もがいて、もがいて、古生物学者!!：みんなが恐竜博士になれるわけじゃないから

木村由莉著；ブックマン社 2020年

[リストNo.35]

1983年生まれの子古生物学者、木村由莉さんの自伝である。

小学生の時に<大恐竜博>で恐竜に出会い、映画『ジュラシック・パーク』で女性古生物学者を知り、「世界を股にかけて恐竜研究をすること」が夢になったというから視野が広い。日本の大学を卒業後アメリカの大学で博士号取得。スミソニアン博物館の연구원を経て、現在、国立科学博物館・地学研究部の研究施設に勤務している。[→次頁に続く]

[←前頁より続く]

子ども時代の夢を追い続けることは決して簡単ではない。しかし彼女は、古生物が好きで好きで、科博に通い講座に参加し、大学進学のために全力を尽くす。遠い目標のために今すべきことは何かを常に考え、方法を考え、戦略を練り、実行する。これは研究者になった現在も継続している。「過去の自分の積み重ねが、今の私を助けてくれた」。これはアメリカ時代に希望のポストに就けた時の言葉である。そして、「子ども時代の自分に会ったら、ビックリされる。憧れの存在になっている」と。こんなふうに言い切れるのはそれ程彼女が日々努力してきたからだ。私は彼女よりはるかに歳をとっているが、自分はどうだったのだろうと問いかけてみずにはいられなかった。



また、本書は字が大きく図や写真も豊富で分かり易いので、小・中学生が読めば進路について考えるよいきっかけとなるに違いない。[MH]

働き方改革で伸びる女性つぶれる女性

東谷由香著；日経 BP 日本経済新聞出版本部 2020年

[リスト No.1]



かなり挑発的なタイトルだ。そして中身は戦略的だ。私はどんな情報を提供してくれるのかな、という思いで手に取った。ところが、である。そんなに役に立つことは見つからなかった。当たり前、なことばかり。私は読み方を変えた。

この本の中のことばを手掛かりに自分の人生を振り返ってみた。自分は働いてきた中で何を考えたか。伸びたか？ つぶれたか？ どちらもあてはまる。研修には時間とお金をかけた。自分を磨いた。「伸びた」点だ。おかげで今でも生活を楽しんでいる。では「つぶれた」点はというと管理職にならなかったこと。理由を探すのは至って簡単。時間的に能力的に無理だと思ってしまっていた。だから研修に力を注いだ。しかし人生それで終わりではなかった。人生百年時代が待っていた。研修にかけた時間とお金は役立っている。一生モノになった。

だからこの本を読んでくれる皆さんに伝えたい。好きなことを懸命にやっておきましょう、と。あとで必ず自分の人生を豊かにしてくれるから。

もう一つ。「他力本願」ではなくて「自分の人生は自分のもの」という思いをもち続けましょう、よ。日常は思いどおりにならないことの連続、でも自分の人生は自分のものだから。この本を最初に手にした時の私は「他力本願」でした。読んでから著者の意図に納得しました。この本を開いたら、項目をしっかりと読んで下さい。一つでも実行しようと思えることが見つかることを祈ります。[JK]

日本列島全国会員が語る「私のコロナ体験記」

高齢社会をよくする女性の会[編]；高齢社会をよくする女性の会 2020年

[リスト No.38]

2020年7月時点で、新型コロナウイルスに対峙する会員達が、様々な立場で現状報告や近況を語っている。医療・介護現場からの声も多く、実際の対応の仕方、感染予防策など、参考になる。

感染対策として、入院・介護施設では面会禁止の措置をとった所が多い。人と人との交流を絶つことは、内に籠り、不安を増幅させ、回復意欲を低下させ、認知機能の更なる悪化を招く。そのことが生命の危険を招くという悪循環に陥る。また、医療・介護現場は相手に寄り添うことで成り立っており、どうしても密になりやすいという問題もある。

町では椅子やベンチが撤去され、休みながら買い物をしてきた高齢者が困っているという声もあった。教育現場からは、リモート授業のメリット・デメリットが報告されている。視覚障がい者が、買い物の際、商品を手にとって触感で選択することに対し、感染予防の観点からクレームを受けた例もあったそうだ。

既存の方法や当たり前と思っていたことが小さなコロナウイルスにより覆された。しかし、それでも人々は皆、この歴史的な危機を受け止め、工夫をこらし、自分の出来ることをしようと奮闘している。本書はその貴重な記録である。[MH]



2020年1～12月に情報センターが新たに受入れた図書からボランティアが選んだ本です。

	書名・副題 / 著者・編著者名	出版社	出版年月	請求番号
* 1	働き方改革で伸びる女性つづれる女性 東谷由香著	日経BP日本経済新聞出版本部	2020.6	159.4/H42
2	性差（ジェンダー）の日本史：企画展示 国立歴史民俗博物館編集	歴史民俗博物館振興会	2020.10	210.1/J36
3	グレタ・トゥーンベリ（信念は社会を変えた！ 6人のインタビュー 1） グレタ・トゥーンベリ著 ジェフ・ブラックウェル、ルース・ホプデイ編；橋本恵訳	あすなる書房	2020.6	289/Sh64
* 4	ルース・ベイダー・ギンズバーグ（信念は社会を変えた！ 6人のインタビュー 3） R.B.ギンズバーグ著 ジェフ・ブラックウェル、ルース・ホプデイ編；橋本恵訳	あすなる書房	2020.10	289.3/R89
5	女性の参画が政治を変える：候補者均等法の活かし方 辻村みよ子、三浦まり、糠塚康江編著	信山社	2020.2	314.8/J76
6	官製ワーキングプアの女性たち：あなたを支える人たちのリアル 竹信三恵子、戒能民江、瀬山紀子編	岩波書店	2020.9	318/Ka59
7	シニア六法 住田裕子監修・著	KADOKAWA	2020.8	320/Sh62
8	冬の蕾：ベアテ・シロタと女性の権利 樹村みのり著	岩波書店	2020.10	323/F99
9	虹色チェンジメーカー：LGBTQ視点が職場と社会を変える 村木真紀著	小学館	2020.10	336.4/N73
10	働くこととフェミニズム：竹中恵美子に学ぶ：竹中恵美子卒寿記念 フォーラム労働・社会政策・ジェンダー編	ドメス出版	2020.10	366.3/H42
11	雇用差別と闘うアメリカの女性たち：最高裁を動かした10の物語 ジリアン・トーマス著；中窪裕也訳	日本評論社	2020.12	366.3/Ko97
12	女性のエンパワメントと教育の未来：知識をジェンダーで問い直す 天童睦子著	東信堂	2020.6	367.1/J76
13	読書する女たち：フェミニズムの名著は私の人生をどう変えたか ステファニー・スタール著；伊達尚美訳	イースト・プレス	2020.6	367.2/D83
14	フェミニズムはもういらぬ、と彼女は言うけれど：ポストフェミニズムと「女らしさ」のゆくえ 高橋幸著	晃洋書房	2020.6	367.2/F18
15	ジェンダーで読む映画評/書評 杉本貴代栄著	学文社	2020.10	367.2/J36
16	「家父長制」は無敵じゃない：日常からさぐるフェミニストの国際政治 シンシア・エンロー著	岩波書店	2020.10	367.2/Ka15
17	99%のためのフェミニズム宣言 S・アルツァ、T・パタチャーリヤ、N・フレイザー共著；恵愛由訳	人文書院	2020.10	367.2/Ky8
18	存在しない女たち：男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く キャロライン・クリアドペレス著；神崎朗子訳	河出書房新社	2020.11	367.2/So49
19	「男女格差後進国」の衝撃：無意識のジェンダー・バイアスを克服する 治部れんげ著	小学館	2020.10	367.21/D37
20	みずをくむプリンセス スーザン・ヴァーデ文；ピーター・H・レイノルズ絵；さくまゆみこ訳	さ・え・ら書房	2020.5	367.24/Mi97
21	中学生・高校生のためのDV、暴力予防教育プログラム 須賀朋子著	かりん舎	2020.1	367.3/C62
22	妻に言えない夫の本音：仕事と子育てをめぐる葛藤の正体 朝日新聞「父親のモヤモヤ」取材班著	朝日新聞出版	2020.10	367.3/Ts72

23	これからの男の子たちへ：「男らしさ」から自由になるためのレッスン 太田啓子著	大月書店	2020.8	367.5/Ko79
24	男の子でもできること：みんなの未来とねがい（世界に生きる子どもたち） ブラン・インターナショナル文；金原瑞人訳	西村書店	2020.7	367.6/O86
25	人生のやめどき：しがらみを捨ててこれからを楽しむ 樋口恵子, 上野千鶴子著	マガジンハウス	2020.9	367.7/J52
26	おうち性教育はじめます：一番やさしい!防犯・SEX・命の伝え方 フクチマミ, 村瀬幸浩著	KADOKAWA	2020.3	367.9/O15
27	おやこで話すはじめてのLGBTs：きみは世界でただひとり 鶴岡そらやす著；一芒イラスト	日本能率協会マネジメントセンター	2020.8	367.9/O94
28	その名を暴け：#MeTooに火をつけたジャーナリストたちの闘い ジョディ・カンター, ミーガン・トゥーイー著；古屋美登里訳	新潮社	2020.7	368.6/So48
29	フラワーデモを記録する フラワーデモ編	エトセラブックス	2020.4	368.64/F92
30	女子少年院の少女たち：「普通」に生きることがわからなかった 中村すえこ著	さくら舎	2020.11	368.7/J78
31	ヤングケアラーわたしの語り：子どもや若者が経験した家族のケア・介護 澁谷智子編	生活書院	2020.10	369/Y57
32	保育園に通えない子どもたち：「無園児」という闇 可知悠子著	筑摩書房	2020.4	369.4/H81
33	生活をデザインする家庭科教育 堀内かおる編	世界思想社	2020.3	375.5/Se17
34	20歳のキャリア術：人生100年時代へ向けた女性のはじめの一步 澤田裕美著	樹村房	2020.3	377.9/N73
* 35	もがいて、もがいて、古生物学者!!：みんなが恐竜博士になれるわけじゃないから 木村由莉著	ブックマン社	2020.8	457/Mo16
36	モノ申す人類学 長谷川眞理子著	青土社	2020.2	469/Mo35
37	あめいろぐ女性医師 宮田加菜[ほか]著	丸善出版	2020.9	498.1/A44
* 38	日本列島全国会員が語る「私のコロナ体験記」 高齢社会をよくする女性の会[編]	高齢社会をよくする女性の会	2020.7	498.6/N71
39	かごバッグの村：ガーナの地場産業と世界とのつながり 牛久晴香著	昭和堂	2020.3	589/Ka19
40	誤作動する脳 樋口直美著	医学書院	2020.3	598.4/G69
41	炎上CMでよみとくジェンダー論 瀬地山角著	光文社	2020.5	674/E62
42	「僕ら」の「女の子写真」からわたしたちのガーリーフォトへ 長島有里枝著	大福書林	2020.1	740/B63
43	Womenここにいる私：あらゆる場所の女性たちの、思いもかけない生き方 (National geographic) ナショナルジオグラフィック編著；湊麻里訳	日経ナショナルジオグラフィック社	2020.4	748/W85

オススメ!



* 印の本は **読んでみました** に感想文を掲載しています。

連絡先：〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
 国立女性教育会館(NWEC) ☎ 0493-62-6195
 ボランティアルーム内「あんな本こんな本」担当